

科目名	国語総合	授業時数	週 4 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	現代文、古文、漢文をはじめとする国語の総合的な分野において、基礎学力を身に着ける。また、主体的な活動を通して日常的な会話や文書などの表現力を身に着ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 標準	S 使える	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけて活用することができる。	論理展開や描写、表現の技法を把握しつつ、文章の主題を的確にとらえ、表現することができる。	他者の意見、自分の意見をまとめ、論理的に表現することで、物事を多角的に考える力と論理の筋道を考える力を発揮する。
	A わかる	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	基礎的な語彙力、文法力に基づいて筋道立てて考え、それを表現することができる。	他者の意見、自分の意見をまとめ、論理的に表現することで、物事を多角的に考える力と論理の筋道を考える力を磨く。
	B できる	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につける努力が見える。	基礎的な語彙力、文法力に基づいて筋道立てて考えることができる。	他者の意見、自分の意見をまとめ、論理的に表現することで、物事を多角的に考える力と論理の筋道を考える力を身に付ける努力をする。
	C する	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて学習意欲を持つ。	基礎的な語彙力・文法力に基づいて筋道立てて考える姿勢を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法	授業時の観察・定期考査・課題確認テスト(小テスト)漢字テスト	授業時の観察・定期考査・課題確認テスト(小テスト)課題レポートなど	授業に臨む姿勢や意欲、グループ活動等での功績など	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『ベトナムのコーヒー屋』(現:随想)『魚は陸から離れられない』(現:評論)『とんかつ』(現:小説)『宇治拾遺物語』(古)故事成語(漢)『虎の威を借る』(漢)『蛇足』(漢)
2 学期	『オムライス』(現:小説)『水の東西』(現:評論)『バスに乗って』(現:小説)『徒然草』(古:随筆)漢詩(漢)論語(漢)
3 学期	『問題解決の心理学』(現:評論)『羅生門』(現:小説)『届く言葉、届かない言葉』(現:評論)『伊勢物語』(古:物語)和歌(古)『世説新語』(漢:史話)『十八史略』(漢:史話)

何で学ぶか(教材)

<ul style="list-style-type: none"> 教科書「明解国語総合【改訂版】」三省堂 「明解国語総合【改訂版】学習課題ノート」三省堂 各種補助教材(プリント等)

どのように学ぶか(授業方法など)

<p>学んだ知識・読解技能を使って文章などを読み、時に自ら考え、あるときは他者と考えを伝え合うことで思考を深め、それを言葉で表現する。板書による講義型の授業に限らず、生徒主体の学習活動を取り入れる。</p>

科目名	数学 I	授業時数	週 3 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析を理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、合理的で豊かな人生にするために、それらを活用する態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 準 基 礎	S 使える 公式や考え方を応用問題へ活用できる。また、既習内容を利用し、別解を模索できる。	多面的に事象を捉え、論理的に思考するなど、数学的な見方や考え方を身に着けている。	授業、課題以外でも自ら演習を積み、学力向上に努めることができる。
	A わかる 問題や公式の意味を理解し、問題の数字が変わっても問題を解くことができる。	問題文や他の問題の解を踏まえて作図や考えをまとめ、適切に処理ができる。	不明点を把握し、言語化して質問することができる。
	B できる 授業での内容を理解し、演習問題で利用することができる。	既習内容からどの公式を利用するかを考え、問題を適切に処理できる。	授業での問いかけに発表をしたり、質問をすることができる。
	C する 教科書の例題を見ながら演習問題を解くことができる。	計算過程や思考の過程をノートなどに表現することができる。	指示した演習問題を授業内に取り組むことができる。
評価方法	定期考査 授業での演習 確認小テスト	定期考査 提出物の状況 グループ学習での発問 授業での板書・発表	授業態度 提出物の状況 グループ学習での活動 授業での板書・発表

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 1次不等式 2次関数のグラフ 2次関数の値の変化
2 学期	三角比 三角形への応用 集合と命題
3 学期	データの分析

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新高校の数学 I』 <small>数研出版『改訂版 新高校の数学I 対応 ポイントノート 数学I』</small> プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 板書・発表

科目名	現代社会	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価			
S 使える	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を十分に理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断することができ、自らの意見をまとめることができる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決するための討議・調査等を行うことができる。
A わかる	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、自らの意見をまとめることができる。	現代の諸課題について、その問題点や克服のための課題等に気づくことができる。
B できる	基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察することができる。	現代の諸課題について、教員に対して、またはグループ内で質問することができる。
C する	基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題をある程度理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、考察することができる。	授業に意欲的に参加し、グループ内等で発言することができる。
評価方法	定期考査 提出物 等	定期考査 提出物 等	授業態度 提出物 グループ討議 等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	青年期と自己の形成 個人の尊重と法の支配
2 学期	現代の民主政治と政治参加の意義 国際政治の動向と日本の役割
3 学期	現代の経済社会と私たちの生活

何で学ぶか(教材)

高等学校改訂版 「新現代社会」 第一学習社 改訂版 新現代社会ノート 第一学習社

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習、グループ討議

科目名	科学と人間生活	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解することにより、科学に対する興味・関心を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 生活から課題を発見し、考察することができる。	現象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	知識を活用し、課題の発見と解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	A わかる 身の回りの現象を的確に捉え、適切な知識を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	課題やワーク等の提出物を遅れてでも提出する。グループ活動に意欲的に参加する。
	C する 基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	教材等の準備ができています。私語や居眠り等をしない。ノートやワークをきちんと書いている。
評価方法	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 編 生命の科学
2 学期	2 編 物質の科学 3 編 光や熱の科学
3 学期	4 編 宇宙や地球の科学

何で学ぶか(教材)

教科書 (東京書籍 科人(306)) ワーク (東京書籍 ニューサポート)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	コミュニケーション英語 I	授業時数	週 3 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基準	S 使える	自分の立場に置き換えて適切な英語表現を用いて正しく話したり書いたりできる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	自然に相づちをうつ、聞き返すなど積極的にコミュニケーションをとることができる。
	A わかる	相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	事物に関する紹介や対話などを見聞きし、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。	理解したことを他者と確認したり、意見を伝えたりすることができる。
	B できる	内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすることができる。	事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすることができる。	理解できない部分をそのままにせず他者に聞くなどして解決することができる。
	C する	モデル文を真似てゆっくりはっきり読み、丁寧に書くことができる。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。	授業を受ける準備ができる。(用具、服装・整理整頓など)また教師の話を集中して聞くことができる。
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・インタビューテスト	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	be動詞, 一般動詞, 否定文, 疑問文 現在形・過去形, 助動詞, 文の成り立ち 進行形, 不定詞, 動名詞
2 学期	現在完了 受け身 現在分詞, 過去分詞
3 学期	比較 関係代名詞 関係副詞 分詞構文, 仮定法過去

何で学ぶか(教材)

数研出版『Revised COMET ENGLISH Communication I』 数研出版『COMET英単語』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	英語会話	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	The objective of this subject is to exercise the students English listening & speaking skills.			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	<i>S</i> 使える An advanced understanding of vocabulary & key expressions	An advanced written & verbal usage of vocab & key expressions	All tasks diligently completed in a timely manner
<i>A</i> わかる	An upper intermediate understanding of vocabulary & key expressions	An advanced written & verbal usage of vocab & key expressions	Above-average completion of all tasks with minimal supervision
<i>B</i> できる	An intermediate understanding of vocabulary & key expressions	An intermediate written & verbal usage of vocab & key expressions	All tasks completed but requires supervision
<i>C</i> する	An elementary understanding of vocabulary & key expressions	An elementary written & verbal usage of vocab & key expressions	Constant supervision & reminding of the task at hand required
評価方法	Written test	Oral test	Class supervision & observation

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson 1 - I like meeting new people (expressing likes), Lesson 2 - I usually wake up at 7 (daily routine)
2 学期	Lesson 3 - We're taking a trip (making a plan), Lesson 4 - How about going to ... (making a proposal) Lesson 5 - You should take your ... (giving advice)
3 学期	Lesson 6 - We are not allowed to ... (Talking about cans & cannots)

何で学ぶか(教材)

<ul style="list-style-type: none"> Textbook "Atlantis English Conversation" Various supplementary materials (prints, etc.)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

Each lesson will introduce a different set of target vocabulary & grammar which the students will use in listening, speaking, writing & reading exercises.
--

科目名	音楽 I	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	・音楽に対する興味・関心を持ち、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。 ・音楽・スポーツ共通の重要事項であるリズム感を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	出来る限り楽譜に階名を書かなくても歌唱・リコーダーの演奏ができる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。
	A わかる	腹式呼吸やリコーダーの運指を覚え、歌唱・リコーダーの演奏ができる。	リズムとハーモニーを感じながら曲想に合った表現ができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	単旋律の歌唱とリコーダーの基礎的な奏法を身につけることができる。	メロディを流れるようにリズムカルに演奏することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	歌唱・演奏するための基礎的な音楽理論を理解することができる。	音楽に関心を持ち、歌唱や楽器演奏に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	音楽理論の基礎「五線」「音符と休符」 歌唱「校歌」 アルトリコーダー基礎「音階」等 アルトリコーダー「日曜日」
2 学期	音楽理論の基礎「音名」「階名」 歌唱「翼をください」 アルトリコーダー「主は冷たい土の中に」
3 学期	音楽理論の基礎「反復記号」「楽語」 歌唱「少年時代」 アルトリコーダー「エーデルワイス」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSA I」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名	美術 I	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	美術に対する興味・関心を持ち、意欲的に美術活動に取り組む態度を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	正確な描写, 明度の表現ができる。他者への指導もできる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	全ての学習を通して表現を工夫することができる。
	A わかる	物の表現がある程度のレベルまで表現ができる。	形, 材質, トーンの表現ができる。	デッサン, 彩色学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	基礎的な表現法を身につけることができる。	構図を考えて, 表現することができる。	デッサン, クロッキー, 鑑賞・美術理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	基礎的な描写理論を理解することができる。	美術に関心を持ち, 描写や彩色に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 身近なもののデッサン ・手, 筆記用具など 美術選択者全員のクロッキー
2 学期	色彩構成 グラデーションの効果 名画鑑賞 1 ゴッホの人生とその作品、背景
3 学期	作品模写 ゴッホ

何で学ぶか(教材)

<p>高校生の美術 1 (日本文教出版) 副教材 スケッチブック, 水彩画用具 (中学校で使ったものを利用してかまいません)。 それぞれの題材や活動で必要な材料は, 半期ごとに購入してもらいます。</p>
--

どのように学ぶか(授業方法など)

<p>講義 作品鑑賞, 作品, 作者説明 作者の生き様, 時代背景までを理解しながら芸術作品を鑑賞する (YouTube などの映像コンテンツの使用)</p>

科目名	書道 I	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース・学年	スポーツ科学 コース	体育
目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	目的や用途に即した芸術的な表現について構成する事項を確認し、自ら表現活を行うことが出来る。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考えることが出来る。	書の持つ良さや文字に高い関心を持ち、生涯にわたって書道の文化を大切に出来る。
	A わかる	古典の美とその技法を学び、普遍性のある表現を構想し、工夫することが出来る。	書のもつ良さや美しさを想像的に味わうことが出来る。	表現活動を通し意図的、主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わうことが出来る。
	B できる	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想することが出来る。	自己のねらいを達成するために、伝統的な書の美を感受し、書で表現することができる。	古典の美とその技法に関心を持ち、積極的に表現技法を高めることが出来る。
	C する	自らの完成に基づいた表現の工夫を行い、段階的に表現力を高めることが出来る。	書の効果的な表現を模索し、実作に移すことが出来る。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
評価方法	提出作品 (練習・清書作品) 理論に関する筆記試験	ワークシート	授業に臨む姿・様子 ワークシート	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字仮名交じりの書」 I ・「漢字の書」 楷書の古典に学ぶ I
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の書」 楷書の古典に学ぶ II ・篆刻 (姓名印を1稜彫ろう) ・「漢字の書」 楷書の古典に学ぶ II ・楷書の古典を基にした漢字創作
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮名の書」 ・「漢字仮名交じりの書」 II

何で学ぶか(教材)

『書 I』教育図書 補助プリント ワークシート 書道用具一式

どのように学ぶか(授業方法など)

【実技・鑑賞・発表】 一斉授業 グループ学習

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 標準	S 使える	実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこなない、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。また、日常生活における自らの課題を発見し、目標を立てて学ぶ力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価	S 使える	保健に関するさまざまな分野から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	A わかる	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であることがわかる。	健康についての思考を深め、事象を複合的に考察することができる。	日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	B できる	保健に関する基礎的な知識やヘルスプロモーションの理念を理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	健康の考え方と成り立ち、私たちの健康のすがた 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり 生活習慣病とその予防、食事と健康 運動・休養と健康
2 学期	喫煙と健康、飲酒と健康、薬物乱用と健康 感染症とその予防、性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制、心身の相関とストレス 心の健康のために
3 学期	交通事故の現状と要因、交通事故を防ぐために 応急手当の意義とその基本、日常的な応急手当 心肺蘇生法の原理とおこない方

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習

教科名	数学 I	授業時数	週 3 単位
		コース・学年	研志 コース 1 学年
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	生活から課題を発見し、事象を数学化することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
S 使 え る			
A 分 か る	複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
B で き る	課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
C す る	基本的な式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	数と式 1次不等式 集合と命題 2次関数のグラフ
2 学 期	2次方程式と2次不等式 三角比 正弦定理 余弦定理
3 学 期	データの分析

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学 I』 数研出版『改訂版 3ROUND数学 I +A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	家庭基礎	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る課題解決能力と実践的な態度を育て、社会の変化に合わせて考え、チームで対応できる能力を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基準	S 使える	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけて、実践することができる。	家庭や地域の生活について自身の役割を理解し、課題解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけ、表現することができる。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その向上を目指して他者と協同し、課題解決に向け主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。
	A わかる	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について自身の役割を理解し、課題を見出すことができ、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心を持ち、他者と協同し課題解決に向け主体的に取り組もうとする。
	B できる	家庭生活の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を見出すことができる。適切に判断する能力を身につけている。	できないことに挑戦し、他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	家庭生活の基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	人とかかわって生きる 家族分野 保育分野 社会福祉分野
2 学期	生活をつくる 食分野 被服分野 住居分野
3 学期	消費者として自立する 消費行動 経済分野

何で学ぶか(教材)

図説 家庭基礎 (実教出版) 新図説家庭基礎学習ノート (実教出版) 2020生活学Navi (実教出版) プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演

科目名	選択スポーツ	授業時数	週 2 単位	全 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	各運動の合理的な実践を通じて、運動能力を高めるようにする。また、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、障害を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 実践の中で技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	各競技での経験を活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	A わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し、より大きな力を発揮するために、集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 専門体力を有し、競技に応じた技術を身に付けている。	専門競技に必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業	授業	授業

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	基礎練習
2 学期	集団練習・ケース練習
3 学期	実践練習

何で学ぶか(教材)

各競技に必要なもの

どのように学ぶか(授業方法など)

<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・ペア学習・グループ学習 ・競技毎の練習
--

科目名	総合的な探究の時間	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	「ロボット化の時代に人が求められる力」について、様々な角度から学び、これからどう生きていきたいかを今の自分の視点から考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	他者との会話や指導書など授業内で学んだ知識をもとに工夫を加えて知識・技能を使える。	グループワークやプレゼンテーションの中で、特に独創性があり、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み、課題を自ら設定して解決することができる。
	A わかる	他者との会話や指導書など授業内で学んだ知識をもとに、求められる水準で知識・技能を使える。	グループワークやプレゼンテーションの中で、独創性があり、他者とも協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して積極的に取り組み、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B できる	他者との会話や指導書など授業内で学んだ知識をもとに課題をやり遂げることができる。	グループワークやプレゼンテーションの中で、他者とも協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して熱心に取り組み、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C する	他者との会話や指導書など授業内で学んだ知識をもとに、課題に取り組もうとする。	グループワークやプレゼンテーションの中で、他者と協調しながら構想を形にしようとするすることができる。	学習内容に取り組み、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	授業中の行動 プリント	授業中の行動 プリント	授業中の行動 プリント	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	次世代スキルについて 社会について
2 学期	未来について 海外について 他者視点について
3 学期	挑戦について 目的意識について

何で学ぶか(教材)

指導書「ENAGEED CORE vol.1 AI・ロボット化の時代に人が求められる力」
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

グループワーク プレゼンテーション

科目名	国語総合	授業時数	週 4 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付け活用できる。文章を的確に読み取り、論理的な自己表現ができる。	相手や目的に応じて適切に「読む・書く・話す・聞く」ができる。主体的に学び、他者と協働して自分の考えをまとめたり、深化させることができる。	国語で伝え合う力を進んで高めつつ、言語文化への関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。課題をすべて提出する。
	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。文章を的確に読み取り、論理的な自己表現に努めることができる。	文章を的確に読み取り、目的に応じて適切な文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることで自分の考えをまとめることができる。	国語で伝え合う力を進んで高めつつ、言語文化への関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。課題をほぼ提出する。
	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けようとする積極的努力を行うことができる。	基礎的な語彙力、文法力に基づいて適切な自己表現ができる。他者と、相互に自己表現を共有できる。	国語で伝え合う力を進んで高めつつ、言語文化への関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。学習意欲がある。
	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けるための最低限の努力ができる。	基礎的な語彙力、文法力に基づいて適切な自己表現に取り組むことができる。	授業を受ける準備ができて（教材、服装）。学習活動に参加し、課題に取り組むことができる。
評価方法	定期考査，提出物，校内漢字テスト，授業時の観察	定期考査，提出物，課題レポート，生徒相互評価，授業時の観察	授業時の観察，各種提出物（提出状況，出来栄え）

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ぐうぜんうたがう読書のススメ（随想），待つということ（随想），古文入門（児のそら寝，検非違使忠明，絵仏師良秀），竹取物語（古文），ゴール（小説），水の東西（評論），言語は色眼鏡である（評論），スピーチ，意見文
2 学期	漢文入門（故事成語・推敲，漁夫之利，借虎威），羅生門（小説），青が消える（小説）徒然草（古文），漢詩（漢文），情報と身体（評論）「もの」の科学から「こと」の科学へ（評論），万葉集・古今和歌集・新古今和歌集・土佐日記（古文），短歌創作，スピーチ
3 学期	スピーチ，意見文，なめとこ山の熊（小説），平家物語・奥の細道（古文），なぜ私たちは労働するのか（評論），命は誰のものなのか（評論），雑説（漢文）

何で学ぶか(教材)

精選国語総合【改訂版】（三省堂），教科書準拠学習課題ノート，常用国語便覧（浜島書店），オリジナル教材（日本経済新聞，日本海新聞等を使用），各種補助教材（プリント等），朗読CD，常用漢字ワイドアルファ（桐原書店）

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義，グループワーク，ペアワーク，課題
スピーチや意見文を相互発表することでお互いの良さを学ぶ

科目名	科学と人間生活	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解することにより、科学に対する興味・関心を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 生活から課題を発見し、考察することができる。	現象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	グループ活動においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる 身の回りの現象を的確に捉え、適切な知識を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	グループ活動において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる 基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	課題やワーク等の提出物を遅れてでも提出する。グループ活動に意欲的に参加する。
	C する 基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	教材等の準備ができています。私語や居眠り等をしない。ノートやワークをきちんと書いている。
評価方法	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 編 生命の科学
2 学期	2 編 物質の科学 3 編 光や熱の科学
3 学期	4 編 宇宙や地球の科学

何で学ぶか(教材)

教科書 (東京書籍 科人(306)) ワーク (東京書籍 ニューサポート)
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	コミュニケーション英語 I	授業時数	週 3 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	S 使える 身近な話題に関する記事、レポート、資料の概要や要点を理解し、必要な情報を読み取り、要点を理解することができる。	関心のある分野の話題について、英語を用いて具体的に説明したり、意見を述べることができる。	英語を活用し、自ら様々なことを英語を用いて表現しようとすることができる。
A わかる	身近な話題に関する短めな記事、レポート、資料の概要を理解することができる。	身近な話題や関心のある話題について簡単な語句や文を用いて、自分の意見やその理由を短く述べるることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
B できる	平易な英語で書かれたごく短い英文を読み、イラストや写真も参考にしながら概要を理解できる。	身近な話題などについて基本的な表現を用いて簡単な質疑応答ができる。	分からないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
C する	短い簡単な会話や説明文の意味を理解することができる。	身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解し、発音できるようにする。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson1 What Can Blood Type Tell Us? Lesson2 Curry Travels around the World Lesson3 School Uniforms Lesson4 Gorillas and Humans
2 学期	Lesson5 "gr8" or great? Lesson6 Biodiesel Adventure Lesson7 Eco-tour on Yakushima Lesson8 Mariko Nagai, Super Interpreter
3 学期	Lesson9 Space Elevator Lesson10 Friendship over Time

何で学ぶか(教材)

Revised LANDMARK English Communication I 必携英単語 LEAP Basic

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	音楽 I	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対する興味・関心を持ち、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。 ・音楽・スポーツ共通の重要事項であるリズム感を身につける。 			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基準	S 使える	出来る限り楽譜に階名を書かなくても歌唱・リコーダーの演奏ができる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。
	A わかる	腹式呼吸やリコーダーの運指を覚え、歌唱・リコーダーの演奏ができる。	リズムとハーモニーを感じながら曲想に合った表現ができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	単旋律の歌唱とリコーダーの基礎的な奏法を身につけることができる。	メロディを流れるようにリズムカルに演奏することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	歌唱・演奏するための基礎的な音楽理論を理解することができる。	音楽に関心を持ち、歌唱や楽器演奏に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	音楽理論の基礎「五線」「音符と休符」 歌唱「校歌」 アルトリコーダー基礎「音階」等 アルトリコーダー「日曜日」
2 学期	音楽理論の基礎「音名」「階名」 歌唱「翼をください」 アルトリコーダー「主は冷たい土の中に」
3 学期	音楽理論の基礎「反復記号」「楽語」 歌唱「少年時代」 アルトリコーダー「エーデルワイス」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSA I」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名	家庭基礎	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る課題解決能力と実践的な態度を育て、社会の変化に合わせてしなやかに成長し続け、社会人基礎力を身につける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基準	S 使える	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけて、実践することができる。	家庭や地域社会の生活について自身の役割を理解し、課題解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけ、表現することができる。	家庭や地域社会の生活について関心を持ち、その向上を目指して他者と協同し、課題解決に向け主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。
	A わかる	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域社会の生活について自身の役割を理解し、課題を見出すことができ、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域社会の生活について関心を持ち、他者と協同し課題解決に向け主体的に取り組もうとする。
	B できる	家庭生活の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域社会の生活について課題を見出すことができる。適切に判断する能力を身につけている。	できないことに挑戦し、他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	家庭生活の基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域社会の生活について課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	人とかかわって生きる 家族分野 保育分野 社会福祉分野
2 学期	生活をつくる 食分野 被服分野 住居分野
3 学期	消費者として自立する 消費行動 経済分野

何で学ぶか(教材)

図説 家庭基礎 (実教出版) 新図説家庭基礎学習ノート (実教出版) 2020生活学Navi (実教出版) プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演

教科名	数学 I	授業時数	週 3 単位
		コース・学年	研志 コース 1 学年
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 基 準	生活から課題を発見し、事象を数学化することができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
S 使 え る			
A 分 か る	複合問題の構成を的確に捉え、適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
B で き る	課題に対して適切な公式を選択し、解くことができる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
C す る	基本的な式を計算したり、公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	数と式 1次不等式 集合と命題 2次関数のグラフ
2 学 期	2次方程式と2次不等式 三角比 正弦定理 余弦定理
3 学 期	データの分析

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学 I』 数研出版『改訂版 3ROUND数学 I +A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	現代社会	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を十分に理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断することができ、自らの意見をまとめることができる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決するための討議・調査等を行うことができる。
	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、自らの意見をまとめることができる。	現代の諸課題について、その問題点や克服のための課題等に気づくことができる。
	基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察することができる。	現代の諸課題について、教員に対して、またはグループ内で質問することができる。
	基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題をある程度理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、考察することができる。	授業に意欲的に参加し、グループ内等で発言することができる。
評価方法	定期考査 提出物 等	定期考査 提出物 等	授業態度 提出物 グループ討議 等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	青年期と自己の形成 個人の尊重と法の支配
2 学期	現代の民主政治と政治参加の意義 国際政治の動向と日本の役割
3 学期	現代の経済社会と私たちの生活

何で学ぶか(教材)

高等学校改訂版 「新現代社会」 第一学習社 改訂版 新現代社会ノート 第一学習社

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習、グループ討議

科目名	社会と情報	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる。	日常生活での情報に関する知識の活用方法を適切に判断し、情報モラルを身につけることができる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	A わかる	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解できる。	情報技術やセキュリティについての思考を深め、自身の現状を適切に把握することができる。	情報社会の在り方と情報技術の適切な活用について主体的に考え、発表し合うことができる。
	B できる	情報に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用した実習に取り組むことができる。
	C する	情報に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	私たちを取り巻く情報 アナログからデジタルへ 情報の表現と伝達 インターネットの利用
2 学 期	ネットワークとコミュニケーション 情報化の影響と課題 法律と個人の責任
3 学 期	社会における情報システム 情報システムと人間 情報社会と問題解決

何で学ぶか(教材)

教科書 社会と情報 東京書籍 関連プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

教科書を中心とする講義形式 グループ活動 PC利用による実習

科目名	書道 I	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース・学年	スポーツ科学 コース	特進
目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える	目的や用途に即した芸術的な表現について構成する事項を確認し、自ら表現活を行うことが出来る。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考えることが出来る。	書の持つ良さや文字に高い関心を持ち、生涯にわたって書道の文化を大切に出来る。
	古典の美とその技法を学び、普遍性のある表現を構想し、工夫することが出来る。	書のもつ良さや美しさを想像的に味わうことが出来る。	表現活動を通し意図的、主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わうことが出来る。
	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想することが出来る。	自己のねらいを達成するために、伝統的な書の美を感受し、書で表現することができる。	古典の美とその技法に関心を持ち、積極的に表現技法を高めることが出来る。
	自らの完成に基づいた表現の工夫を行い、段階的に表現力を高めることが出来る。	書の効果的な表現を模索し、実作に移すことが出来る。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
評価方法	提出作品 (練習・清書作品) 理論に関する筆記試験	ワークシート	授業に臨む姿・様子 ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 「漢字仮名交じりの書」 I 「漢字の書」 楷書の古典に学ぶ I
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 「漢字の書」 楷書の古典に学ぶ II 篆刻 (姓名印を1稜彫ろう) 「漢字の書」 楷書の古典に学ぶ II 楷書の古典を基にした漢字創作
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 「仮名の書」 「漢字仮名交じりの書」 II

何で学ぶか(教材)

『書 I』教育図書 補助プリント ワークシート 書道用具一式

どのように学ぶか(授業方法など)

【実技・鑑賞・発表】 一斉授業 グループ学習

科目名	数学 I	授業時数	週 3 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 準	S 使える	公式や考え方を応用問題へ活用できる。また、既習内容を利用し、別解を模索できる。	多面的に事象を捉え、論理的に思考するなど、数学的な見方や考え方を身に着けている。	授業、課題以外でも自ら演習を積み、学力向上に努めることができる。
	A わかる	問題や公式の意味を理解し、問題の数字が変わっても問題を解くことができる。	問題文や他の問題の解を踏まえて作図や考えをまとめ、適切に処理ができる。	不明点を把握し、言語化して質問することができる。
	B できる	授業での内容を把握し、演習問題で利用することができる。	既習内容からどの公式を利用するかを考え、問題を適切に処理できる。	授業での問いかけに発表をしたり、質問をすることができる。
	C する	授業資料や教科書を見ながら演習問題を解くことができる。	計算過程や考え方をノートなどに表現することができる。	指示した課題を期限内に取り組むことができる。
評価方法	定期考査 授業での演習	定期考査 提出物の状況 グループ学習での発問 授業での発表	授業態度 提出物の状況 グループ学習での発問 授業での発表	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 1次不等式 集合と命題 2次関数のグラフ
2 学期	2次方程式と2次不等式 三角比
3 学期	正弦定理 余弦定理 三角形の面積 データの分析

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学 I』 数研出版『改訂版 3TRIAL数学 I +A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習 学級単位での授業

科目名	数学A	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を養い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	S 使える 事象に対して適切な理解をし，適切に数学的な処理ができる。	事象を的確に捉え，それを数学的論理に基づいて言語で表すことができる。	既習内容が日常生活のどこで活用されているかを考えることができる。
	A わかる 公式の意味を理解し，各場面ごとに適切な公式を用いることができる。	事象を的確に捉え，数学的論理を考察することができる。	不明点を把握し，言語化して質問することができる。
	B できる 授業での内容を把握し，演習問題で利用することができる。	計算過程や考え方をノート等に表現することができる。	授業での問いかけに発表をしたり，質問をすることができる。
	C する 授業資料や教科書を見ながら演習問題を解くことができる。	問題内容，事象を把握し，状況を整理することができる。	指示した課題を期限内に取り組むことができる。
評価方法	定期考査 授業での演習	定期考査 グループ学習 授業での発表	授業態度 提出物の状況 グループ学習 授業での発表

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	場合の数 確率
2 学期	平面図形 空間図形
3 学期	約数と倍数 ユークリッドの互除法 整数の性質の活用

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学A』 数研出版『改訂版 3TRIAL数学 I +A』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習 学級単位での授業

科目名	選択スポーツ	授業時数	週 2 単位	全 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	各運動の合理的な実践を通じて、運動能力を高めるようにする。また、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、障害を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 準 基 礎	S 使える 実践の中で技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	各競技での経験を活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	A わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し、より大きな力を発揮するために、集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 専門体力を有し、競技に応じた技術を身に付けている。	専門競技に必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業	授業	授業

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	基礎練習
2 学期	集団練習・ケース練習
3 学期	実践練習

何で学ぶか(教材)

各競技に必要なもの

どのように学ぶか(授業方法など)

<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・ペア学習・グループ学習 ・競技毎の練習
--

科目名	総合的な探究の時間	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	「ロボット化の時代に人が求められる力」について、様々な角度から学び、これからどう生きていきたいかを今の自分の視点から考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	他者との会話や指導書など授業内で学んだ知識をもとに工夫を加えて知識・技能を使える。	グループワークやプレゼンテーションの中で、特に独創性があり、他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み、課題を自ら設定して解決することができる。
	A わかる	他者との会話や指導書など授業内で学んだ知識をもとに、求められる水準で知識・技能を使える。	グループワークやプレゼンテーションの中で、独創性があり、他者とも協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して積極的に取り組み、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B できる	他者との会話や指導書など授業内で学んだ知識をもとに課題をやり遂げることができる。	グループワークやプレゼンテーションの中で、他者とも協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して熱心に取り組み、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C する	他者との会話や指導書など授業内で学んだ知識をもとに、課題に取り組もうとする。	グループワークやプレゼンテーションの中で、他者と協調しながら構想を形にしようとするすることができる。	学習内容に取り組み、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	授業中の行動 プリント	授業中の行動 プリント	授業中の行動 プリント	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	次世代スキルについて 社会について
2 学期	未来について 海外について 他者視点について
3 学期	挑戦について 目的意識について

何で学ぶか(教材)

指導書「ENAGEED CORE vol.1 AI・ロボット化の時代に人が求められる力」 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

グループワーク プレゼンテーション

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこなない、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

科目名	美術 I	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	美術に対する興味・関心を持ち、意欲的に美術活動に取り組む態度を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評 価 基 準	S 使える	正確な描写, 明度の表現ができる。他者への指導もできる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	全ての学習を通して表現を工夫することができる。
A わかる	物の表現がある程度のレベルまで表現ができる。	形, 材質, トーンの表現ができる。	デッサン, 彩色学習に積極的に取り組むことができる。	
B できる	基礎的な表現法を身につけることができる。	構図を考えて, 表現することができる。	デッサン, クロッキー, 鑑賞・美術理論の学習に積極的に取り組むことができる。	
C する	基礎的な描写理論を理解することができる。	美術に関心を持ち, 描写や彩色に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)	
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	オリエンテーション 身近なもののデッサン ・手, 筆記用具など 美術選択者全員のクロッキー
2 学 期	色彩構成 グラデーシヨンの効果 名画鑑賞 1 ゴッホの人生とその作品、背景
3 学 期	作品模写 ゴッホ

何で学ぶか(教材)

<p>高校生の美術 1 (日本文教出版) 副教材 スケッチブック, 水彩画用具 (中学校で使ったものを利用してかまいません)。 それぞれの題材や活動で必要な材料は, 半期ごとに購入してもらいます。</p>
--

どのように学ぶか(授業方法など)

<p>講義 作品鑑賞, 作品, 作者説明 作者の生き様, 時代背景までを理解しながら芸術作品を鑑賞する (YouTubeなどの映像コンテンツの使用)</p>
--

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。また、日常生活における自らの課題を発見し、目標を立てて学ぶ力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 価値 基準	使える S	保健に関するさまざまな分野から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	わかる A	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であることがわかる。	健康についての思考を深め、事象を複合的に考察することができる。	日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	できる B	保健に関する基礎的な知識やヘルスプロモーションの理念を理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	する C	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	健康の考え方と成り立ち、私たちの健康のすがた 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり 生活習慣病とその予防、食事と健康 運動・休養と健康
2 学期	喫煙と健康、飲酒と健康、薬物乱用と健康 感染症とその予防、性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制、心身の相関とストレス 心の健康のために
3 学期	交通事故の現状と要因、交通事故を防ぐために 応急手当の意義とその基本、日常的な応急手当 心肺蘇生法の原理とおこない方

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習
